

第27回全日本フルコンタクト・テコンドー選手権大会

蹴武型見所

A級蹴武型・男女混合試合（選抜15名）

昨年、聖徳（飛び前蹴りの型）が河明生宗師範によって創始完成された（有級者蹴武型7、有段者蹴武型7、合計14）。それにともない本大会より蹴武の型試合は、A級、B級の二階級制となり、それぞれ新ルールが定められた。前者は、蹴武の型王者を決めるA級蹴武型ルール、後者は、B級蹴武型ルールである（詳細は日本テコンドー協会本部HP参照）。

A級蹴武型ルールは、旧ルールよりも、より高い演武力が要請される。主審がひく「型の札」による指定型、難易度の高い蹴武の型を完璧に演武しなければならないからである。普段の地道な稽古、何度も何度も反復継続した汗の量が勝敗を左右するのだ。

3連覇に挑む植田博和（東京江東テコンドークラブ。Aブロック）は、新ルール初陣となる。近年、最も厳しい戦いになるだろう。熊本地震で被災した荻山寛（熊本テコンドー愛好会）が参加することは、J T A 七大精神の克己の精神につらなり、まことに喜ばしいことである。健闘を期待したい。

Bブロックは激戦である。誰が勝ち残ってもおかしくない。中学生ながらA級に挑戦するのが、小学1年の頃からJ T Aに入門し健全に成長している少年少女部生え抜きの青木隼人（東京江東テコンドークラブ）と福島良菜（福岡筑紫野テコンドークラブ）に注目したい。

Cブロックは、中学1年生にしてJ T A九州の蹴武型チャンピオン・森慎治が優勢である。森も、青木や福島同様、小学1年の頃からJ T Aに入門し健全に成長している生え抜きである。身長も伸び、体力十分であるが、進学と同時に始めた球技の影響で蹴美力がやや落ちているのが気にかかる。選手宣誓に選ばれたベテラン・西谷慎一郎（東京大森テコンドークラブ）の意地に期待したい。

Dブロックは、前根奏子（横浜市立大学体育会テコンドー部）と久本遼（岡山テコンドークラブ）の争いとなる可能性が高い。両者は、全日本大学大会一部A級蹴武型決勝戦で二度の延長戦を戦っている。熱戦が再現される可能性が高い。ベテラン・辻陽介（愛知大府テコンドークラブ）の意地に期待したい。



荻山 寛

熊本地震でしばらくの間、愛好会の稽古場も閉鎖され練習できない時期もありましたが、それを乗り越えて今に至ります。すべてに感謝し、大会に臨みたいと思います。



根塚友香

個人戦・団体戦のどちらも出場権をいただくことが出来嬉しいです！

型のA級ルールが始まり、去年とはまた違って盛り上がる全日本になるのではないかと思います。

自分自身のレベルを上げて、一戦でも多く試合ができるよう頑張ります。



植田博和

今年優勝してこそ真の蹴武型のチャンピオンだと思います。他の選手と同じく挑戦者として挑み、必ず優勝します！



青木隼人

去年に続いて出場することが出来て嬉しいです。今年は型でも組手でもいい結果を残せるように頑張ります。



西谷信一郎

時間がかかりましたが、追い求めていた好きなJTAテコンドーが、はっきりしているの、それが会場に伝わり結果に繋がればと思っています。



相良典隆

今年も全日本大会に出場できることを心から嬉しく思います。3回目の挑戦になりますが、最高峰の舞台上で自分の全てを出し尽くせるようがんばります！

蹴武型・団体戦（選抜・推薦7チーム）

蹴武の型は日本跆拳道の魂である。

日本跆拳道の魂を3名で演武する団体戦は、クラブの団結力を表すシンボリックな種目であり、「団体の心」を表徴している。選抜・推薦されているクラブは、まとまりが良い調和したクラブと言えるだろう。

将来、より多くのJTA加盟クラブの参加を望まれる。

本大会蹴武の型団体戦チャンピオンの本命は、蹴美杯（JTA団体対抗戦団体型）で圧勝した福岡筑紫野テコンドークラブである。メンバーの福島良菜、森慎治、福島宏青は、いずれも小学1年の頃からJTAに入門し健全に成長している。河明生宗師範の期待も高く、九州出張指導の都度、その薫陶を受け、彼らはそれに応えようとしている。その結果が、チーム全員が準A級蹴士認定である。

対抗筆頭は、連覇を狙う岡山大学体育会テコンドー部（谷本翔平、前橋拳史郎、田中千奈実）である。ただ、優勝メンバー2名が卒業しているため、やや戦力ダウンが否めない。



森 慎治

型の部では初めて一般の部出場、組手は初めての中学生の部出場、団体戦も初出場ということで緊張しますが、入賞できるように頑張ります。

蹴武の型 少年少女部（選抜・推薦9名）

「本種目の優勝者が長じて修練に励めば必ず将来の「蹴武の型チャンピオン」になれる」、と昨年予言したとおり、本大会においてA級蹴武型の有力選手に成長したのが、森慎治、福島良菜、青木隼人である。

彼らの後に続くのは誰か。

福島宏青（福岡筑紫野テコンドークラブ）か神谷優希（愛知大府テコンドークラブ）であろう。



福島宏青

3種目出場するので、全部優勝できるように頑張ります。

神谷優希

去年は悔しい思いをしたので今年は悔いのないよう
に頑張ります。

B級蹴武型・男女混合試合（選抜15名）

B級蹴武型は新人戦の意味合いが強く、この種目で勝ち上がった選手が来年度A級蹴武型に昇格することが望ましい。
谷本翔平（岡山大学体育会テコンドー部）、新開竜大（岡山大学体育会テコンドー部）、ベテランの河野昌俊（愛媛松山テ
コンドークラブ）が優勝候補といえる。



河野昌俊

予選会では悔しく情けない結果に終わりました。
この度の推薦は、自信を取り戻す機会を与えて
頂いたと思っています。

大会当日は平常心で、技の一つ一つに
感謝の気持ちを込めて演武したいと思います。